

えんど久子県議 市議団らと共に国に要望

国有林に埋めた猛毒の除草剤安全に撤去を

共産党が国会で撤去を求め

ダイオキシンを含む猛毒の枯葉剤の成分245 T剤が別府市を含む全国の46ヶ所の国有林に埋められています。日本共産党の田村貴昭衆議院議員が国会で再三安全な処理を求めてきたことを受け、今年度から順次、掘削・撤去が始まります。

別府市十文字原に75kg埋設

別府市内の埋設箇所は、市中心部から約6キロ離れた十文字原の山の中。林野庁は1971年に粒剤の約75キロを土とセメントにまぜてコンクリートの塊にし地下1メートル以上に埋設。フェイスで囲われており、定期的に年2回、さらに豪雨や地震の

後にも林野庁が目視で確認しているが、異常なし。別府市は年1回沢の下流部で水質検査をしており、異常なし、とのこと。



十文字原の埋設現場を視察する左から平野別府市議・赤野宇佐市議・えんど県議・美馬別府市議。22.4.11.

県・市・共産党が国に要望

コンクリートの劣化などが心配されるため、別府市と大分県は今年2月下旬に国に速やかな撤去と周辺の土壌検査・水質検査を要望しました。

日本共産党のえんど久子県議、平野ふみかつ・美馬恭子両別府市議、赤野道と宇佐市議は、4月11日、林野庁の森林管理署署長らと現地を視察。

4月27日、えんど久子県議が上京し国会内で田村貴昭衆議院議員と共に林野庁長官宛の要望書を林野庁職員に手渡し、話し合いました。この協議にはオンラインで市議らも参加しました。

早く安全に撤去をと訴える

県民の心配の声を伝え、早期の安全な撤去を求め、えんど久子県議らに、水源から遠い場所に埋設し、水に溶けにくいいため残留性が強い、撤去の手法は見えてきたと林野庁は話しました。全国46ヶ所の撤去の順番の予定はまだ未定とのこと。早期の安全な撤去を今後国に求めていきます。



国会内にて林野庁の職員に要望書を手渡すえんど県議。右が田村貴昭衆議院議員。22.4.27.